

国語科学習指導案

池田市立神田小学校
指導者 樋口 綾香

1. 日 時 令和3年10月7日(木) 第6時限
2. 場 所 第6学年3組教室
3. 学年・組 第6学年3組(28名)
4. 単元名 表現の工夫をとらえて読み、それを生かして書こう
5. 教材名 『鳥獣戯画』を読む / 「日本文化を発信しよう」(光村図書 六年)
6. 単元の目標
 - 文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。【知(1)カ】
 - 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。【思 B(1)イ】
 - 目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。【思 B(1)ウ】
 - 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。【思 B(1)エ】
 - 著作権を理解し、調べた内容を適切に用いようとしている。【主】
 - 『鳥獣戯画』について関心をもち、学習の見通しをもって日本文化を発信する学習に取り組もうとしている。【主】
 - 日本文化を発信する電子書籍がよりよい内容になるように、文章や資料を工夫したり、必要な情報を調べたりしながらグループで協働して粘り強く取り組もうとしている。【主】

7. 指導にあたって

(1) 児童観

本学級の児童は、読書や文学の読解、自分が解釈した内容を伝え合うことなどに対して大変積極的である。授業中は、作品に対して「自分はこう感じた」という内容をつぶやく児童が多く、全体の学習参加率を上げたり、国語が苦手な児童も参加しやすくなったりするなど、学級全体に学ぼうとする姿が見られ、その主体的な態度が授業によい影響を与えている。

一方で、説明的文章では、子どもたちが解釈を楽しめなくなる傾向がある。それは、説明的文章の学習において、「正確に読まねばならない」「筆者の主張を明確に示さねばならない」と受け止めているからかもしれない。また、語彙が乏しい児童が多く、書くことになると、拙い文章になってしまい、読解で得た知識や技能を發揮できないことがある。

説明的文章でも楽しんで文章を読むことは可能である。本教材を使って、高畑勲氏の読者を引き込む書き方の技術に触れるとともに語彙を豊かにしながら、読むことも書くことも楽しめる児童の姿を引き出した。

(2) 教材観

『鳥獣戯画』を読むは、5年「固有種が教えてくれること」、6年「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」に続き、資料の使い方や論の展開のしかたが特徴的な説明的文章である。

本文は、アニメーション映画のプロである高畑勲氏が『鳥獣戯画』をどのように見て、何を感じたのかが巧みな表現で書かれている。その視点は、絵の世界を想像した「ストーリー視点」、絵そのものの描かれ方、つまり「技法を見る視点」、アニメーションのルーツとして『鳥獣戯画』を「社会的・歴史的に見る視点」など、多様である。また、体言止め、台詞、評価言、問いかけ、呼びかけ、口語表現といった書き方の工夫だけでなく、知識、歴史、想像などが織り交ぜられ、読者を引き込む工夫が随所にしかけられていることから、テンポよく読み進められる。

日本文化に関わる筆者のものの見方や考え方、表現の工夫を捉えて読むことで、身近な事物を「日本文化」として認識する目を養うとともに、そのものの価値を読み手に届けるための「情報を得る力」や、「多面的・多角的に事物を判断し、表現する力」を育てることができる教材である。

「日本文化を発信しよう」は、『鳥獣戯画』を読むで得た効果的な表現の方法や、社会的・歴史的に作品を見る視点を生かして、日本文化の価値や魅力を発信することをねらいとした書くことの学習である。グループで一つのパンフレットを作成することから、分担して取り組む過程で、日本文化を多面的・多角的に捉える視点や、統一感を出すために読み手を引き込む技などを話し合う必然性を生むことができる教材となっている。

(3) 指導観

本単元ではものを見方を広げ、それらを豊かに表現する力をつけることをねらいとする。筆者のものの見方や書き方の技に気づかせるために、初めに『鳥獣戯画』の1枚目(P143)の解説文を書かせる。自分の文と、筆者の文を読み比べることで、筆者のものの見方の多様性や表現の巧みさを実感し、本文を主体的に読み深める構えをつくりたい。

本時では、事物の価値を強く印象付けることのできる言葉について考えることを通して、なぜ筆者は『鳥獣戯画』を「人類の宝」と表現したのか、に迫る。筆者の思いに迫るためには、『鳥獣戯画』を「歴史的な面」と「社会的な面」から評価する視点が必要となる。

そのために、前時では8段落を読み、日本四大絵巻のうちの三つ、『信貴山縁起絵巻』『伴大納言絵巻』『源氏物語絵巻』と比較して、『鳥獣戯画』の特徴を明確にする。この活動は、児童自身が『鳥獣戯画』を「社会的な面」から評価することとなる。現代を生きる日本人として何を感じるか、筆者自身はどう感じているか、さらには昔から『鳥獣戯画』を守ってきた人々は、なぜこの絵巻物を大切にしてきたのか、それぞれの思いを読み解きたい。

単元の言語活動である「日本文化を発信する電子書籍を発行する」ためには、事物の価値を読み手に伝えることのできる表現力を身につけるだけでなく、事物を多面的・多角的に見ることのできる視野の広さと情報活用能力が重要である。電子書籍で共有する利点を生かし、資料の選択や配置、色合いなどにもこだわり、文章と資料を結び付けて論を進める書き方についても一層関心を高め、読み手を引きつけるデザインの在り方についても模索する態度を養いたい。

8. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の種類とその特徴について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたら、論の進め方について考えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 『鳥獣戯画』について関心をもち、学習の見通しをもって日本文化を発信する学習に取り組もうとしている。 日本文化を発信する電子書籍がよりよい内容になるように、文章や資料を工夫したり、必要な情報を調べたりしながらグループで協働して粘り強く取り組もうとしている。 著作権を理解し、調べた内容を適切に用いようとしている。

9. 単元の指導と評価の計画 (全10時間 本時5/10)

次	時	主な学習内容	評価規準・評価方法
1	1	<ul style="list-style-type: none"> P143の絵を見て、解説文を書く。 高畑勲さんが書いた文章と比較し、感想を書く。 単元の言語活動を知り、学習の計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 『鳥獣戯画』に関心をもち、学習に取り組もうとしている。(態度)
2	2	<ul style="list-style-type: none"> 絵と文章を照らし合わせながら、筆者の『鳥獣戯画』の見方を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の書き方の特徴や工夫に気づいている。(ノート・発言)
	3	<ul style="list-style-type: none"> 7段落の「三びきの応援蛙」の解説文を1段落のストーリー視点、2段落の技法視点、3段落の評価の言葉を参考にして書き、相互評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の書き方のよい点を生かして、絵の解説文を書いている。(ノート)
	4	<ul style="list-style-type: none"> 8段落を読み、『鳥獣戯画』の特徴を「歴史的な視点」から捉える。 日本四大絵巻を知り『鳥獣戯画』が国宝となり得た訳を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 8段落の内容を理解し、『鳥獣戯画』の特徴を捉えている。(ノート・発言)
	5 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 9段落を読み、要点を捉える。 『鳥獣戯画』が「人類の宝」である理由を、「歴史的な視点」と「社会的な視点」から読み解き、筆者の思いに迫る。 読み手に「日本文化」を印象づける技についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 『鳥獣戯画』を多面的・多角的に観ようとしている。 「日本文化」を読み手に印象づける技について書いている。(ノート)

3	6・7	<ul style="list-style-type: none"> ・「調べた情報の使い方」を読み、著作権への理解を深める。 ・タブレットPCを使い、日本文化について調べる。 ・グループでどの日本文化について発信するか決めて、電子書籍づくりの構想を練る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・著作権を理解し、調べた資料を適切に用いている。(態度) ・日本文化に関心をもち、積極的に調べている。(態度)
	8・9	<ul style="list-style-type: none"> ・「事物そのものの評価」「歴史的な面の評価」「社会的な面の評価」について、ICTを活用しながらグループで調べたことをGoogleスライドにまとめる。(共同編集) 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章や資料を工夫したり、必要な情報を調べたりしながらグループで協働して粘り強く取り組んでいる。(タブレットPC)
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・全員で一つのスライドにまとめ、PDF出力して、電子書籍にして読み合う。 ・それぞれの日本文化の発信内容について、感想を伝え合う。 ・単元の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み合い、資料の使い方や工夫や文の構成の仕方の良い点に気づいて伝え合っている。(ノート)

10. 本時の展開 (5/10時間目)

(1) 本時の目標

- ・9段落の要点を捉え、『鳥獣戯画』を「人類の宝」と表現した筆者の思いや、その価値を「歴史的な視点」と「社会的な視点」から読み解くことができる。
- ・「日本文化」を読み手に印象づける技についてまとめることができる。

(2) 展開

主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・8段落の学びを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で日本四大絵巻の他の三つと『鳥獣戯画』を比較したこと確認し、「国宝」となり得た訳に着目させる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・9段落を音読し、要点を抜き出す。(ロイロノート/ピラミッドチャート) ・筆者の主張を捉える。 ・「人類の宝」と筆者が評した理由を「歴史的な視点」と「社会的な視点」の両面から読み取る。 ・『鳥獣戯画』は、だから、国宝であるだけでなく、人類の宝なのだ」と書いた筆者の思いや祖先の思いを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8段落の要点をピラミッドチャートの下段、9段落の要点を中段に書かせて、構成と要点を整理することで、筆者の主張を捉えられるようにする。 ・ピラミッドチャートの上段にくる言葉を本文全体から考えさせることで、筆者が主張する『鳥獣戯画』の価値を明確にする。 ・ピラミッドチャートの下段が「歴史的視点」、中段が「社会的視点」であることを押さえ、事物を評価するときに多面的・多角的な視点が必要になることに気づかせる。 ・「国宝であるだけでなく、人類の宝と言い切ったのはなぜか」という発問に対し、自分の考えを書かせ、日本文化を発信する筆者や、『鳥獣戯画』を今の時代まで大切に保存し、伝えた祖先たちの思いに迫らせ、次時の「日本文化を発信しよう」につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9段落の要点を抜き出し、ピラミッドチャートに書き込んでいる。(ノート・タブレットPC) ・『鳥獣戯画』を「人類の宝」と評した理由をノートに書き、『鳥獣戯画』を多面的・多角的に観ようとしている。(ノート・タブレットPC)
<ul style="list-style-type: none"> ・日本文化を発信するときに、必要な力について振り返りに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元の学習を通して、読み手を引きつける文章を書くために必要な表現の工夫やものの見方などについて読み深めたことをまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本文化」を読み手に印象づける技について書いている。(ノート)